

週日の説教

金 大烈 神父 2010年9月2日(木)

《神様のみ旨ならば素晴らしい結果が待っている - み言葉に従う愚かな者になりましょう - 》

今日の福音(ルカ 5・1 11)を読んで考えたいのは、二そうの舟のことです。聖書は、舟が二そうあったと伝えていますね。イエス様は、そのうちの一そうを選びました。それはシモン・ペトロの舟でした。イエス様は、シモン・ペトロの舟に乗って教え続けられました。その後、シモン・ペトロに「漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい。」と言われました。それを聞いたシモン・ペトロは、「夜通し漁をしましたが、一匹もとれませんでした。あなたがどういう方か知りませんが、私は漁については専門家です。だから余計なことはおっしゃらないでください。」と思ったのでしょう。しかし、「あなたがおっしゃったことならば、従います。」と言って、舟を出し、網を降ろしました。その結果、たくさんの魚が網にかかり、網が破れそうになり、もう一そうの舟の人々に合図をして、助けてもらいます。

この福音で私たちが考えるべきことは、舟は二そうあったけれど、魚をとったのは一そうだけだった、ということです。何故でしょうか。一番大きい差は、その中にイエス様がられるか、そうではないかによって全然違う結果が出ることです。この二そうの舟に乗っている人々は、みんな同じように漁の専門家でした。しかしシモン・ペトロが、「分かりました」と言ってイエス様の言葉に従い、このような結果が出たのです。

今日の第一朗読(一コリント 3・18 23)には素晴らしい話が出ていますが、何か分かりますか。これは、そのまま解釈すればよい言葉です。「**自分はこの世で知恵のある者だと考えているなら、本当に知恵のある者となるために愚かな者になりなさい。**」と書かれていますね。福音では、漁の専門家であり、漁について何でも知っている(漁については知恵者である)シモン・ペトロが、自分の知識、信じていたものをあきらめました。自ら愚かな者になったのです。横にいたもう一そうの舟の人々は、からかったかもしれせん。「イエス様は、なぜこんなことをさせるのか。そしてその言葉について行くシモン・ペトロという者は何と愚かな者なのか。」と思ったのでしょう。しかし、結果はこのようになりました。

私たちの人生も、本当に愚かだと思えるものを選ばなければならない時が結構あります。その時、自分の浅い知識や浅はかさのために、み言葉に従わないで、自分の判断や知識を信じて、自分で決めてしまっている場合が多いのではないのでしょうか。けれども、よく考えてみますと、イエス様に「分かりました。私は無理だと思うのですが、あなたのみ旨ならば従ってみます。」という心を見せた人は、必ずよい実を結んでいます。それは体験としてよく見られることです。

この福音を通して、私たちに、「自分の頭、自分の心では納得できないことがあっても、『神様のみ旨ならば、そこには一番素晴らしい結果が待っている』と考える信仰」が必要ではないかと思いました。

今日も私は、(思いがけない信者さんの死によって)少しがっかりしました。病院では、医師より「三日は越せないでしょう。」という話がお父さんにあったようです。その話を聞いていたので、私も心配しながら病室に入りましたが、顔を見たら、「大丈夫でしょう」という気持ちになりました。そして、「皆さん、祈りましょう。神様が救ってくださるのだから、あなたがたは懇切に祈ってください。それしかありません。」と確信を持って話しました。帰り途でも、帰ってから、その方のために祈りました。「何とか癒してください。あなたの栄光のために。」と。しかしミサの準備をして、階段を降りる時に電話が鳴り、「亡くなりました。」という知らせがありました。今までのきれいに生きて去られた先輩達の生き方を考えてみますと、本当に従順に受け入れなければならないことなのでしょう。“そこには何かみ目が隠れているのだから、一生懸命に祈らなければならない”ということばかり考えています。

皆様、パウロは、「知恵がある者になるためには愚かな者になりなさい」とおっしゃいました。しかし私の体験では、本当に知恵がある人は愚かになります。愚かになろうとしてなるのではなくて、自然に愚かになります。逆に、大体知恵があると錯覚している人はもともと愚かで、愚かな道を知恵がある道だと思いながら選んで来たと思います。

皆様、イエス様の知恵も愚かな道を選びました。そこに従う人々もみんなそうでした。

今日の福音には、もう一つ不思議な箇所があります。「そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。」シモン・ペトロは、自分が生きるためにいつも使っていた、仕事のメインになっていた舟をきれいに捨てて、イエス様について行ったという話です。誰が考えてもこれは愚かなことです。常識に外れることです。まして、ペトロには家族がいたのです。妻もいたし、子どももいました。この人は、なぜこのように全てを捨ててイエス様について行けたのでしょうか。そのようなシモン・ペトロと比べると、私たちは執着している色々なことによって、逆に正しい知恵を見られなくなっているのではないかと思います。

本当に知恵を求める人ならば、その人はイエス様が見せてくださった愚かな道を選ぶしかないのだと私は思います。

ありがとうございました。